

## 問2(3):中世カトリック教会のメディア性と 文化的・政治的機能について

松山 和弘

2014 年 11 月 15 日

### 1 カトリック教会のメディア性

カトリック教会のメディア性を考える場合、ミサに触れる必要がある。カトリック教会ではミサを重視し、特にミサで行われる聖体拝領を特に重視しているからである。

このため、教会の建築様式、美術、聖歌、聖職者の説教などは、全て聖体拝領の準備と考えられる。

キリスト教は、偶像崇拝ではないことになっているので、キリスト教 (福音) を伝える全てのものは、情報伝達媒体 (メディア) と言えると考えられる。

また、使徒も預言者もメッセンジャーである。

### 2 教会での絵画の使用について

中世史でのカトリック教会をみると、10 世紀頃までは、ゲルマン民族、ケルト系民族へ布教期であり、欧州全体に信仰が行き渡るのに年月を要している。

教皇グレゴリウス 1 世 (在位 590-404) より、文字を読めない人への布教のために、絵画は使用すべきであり、偶像崇拝にはあたらないという教令が出ている。偶像破壊運動 (726-843, ビザンチン) の時期があったものの、布教の段階から、絵画が使用されてきた。このため、絵画自体が信仰対象ではないという前提に、ずっと習慣として使われてきている。ステンドグラスや絵画は信者からの要望で使用するという面がある。

### 3 中世大聖堂のメディア性と文化的・政治的機能

テキストにある 11～13 世紀の大聖堂建築時には、既に信仰は行き渡ったいたので、布教のためではなかったはずである。むしろ、大聖堂の建設は、当時の教会や世俗の権力を誇示するためではなかったのではないかと考えられる。